

『Jet Press 720S』導入事例——朝日印刷工業株式会社  
写真画質と機動力を活かした独自の付加価値サービスで  
地域の潜在需要を掘り起こす。

2016年3月7日

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

群馬県前橋市に本社を置く朝日印刷工業株式会社（本社：前橋市元総社町 67、社長：石川靖氏）は、2015年10月、富士フイルムのインクジェットデジタル印刷機『Jet Press 720S』を導入し、オンデマンドプリントショップ『DiPS.A』で展開するコンシューマー向け印刷事業を強化。地域に密着した小部数・高付加価値印刷サービスを展開し受注拡大を図っている。長年、官公庁の仕事を主体に手がけてきた同社が BtoC 向け印刷サービスへと業容を拡大した背景や、『Jet Press 720S』を活かした独自の戦略について、制作部長・富沢充芳氏に伺った。



●アルバム製作で潜在需要の大きさを実感

朝日印刷工業は創業以来、最先端の設備を積極的に導入しながら、市町村郡史や官報など、官公庁の書籍・パンフレットなどを多く手がけており、現在でも受注額全体の約7割を官公庁の仕事が占めている。一方、2000年代以降は、コンシューマー直結型の事業を強化する方針を立て、地域に密着したサービス展開で受注拡大を目指すことに。その拠点の一つが、2001年に開設したオンデマンドプリントショップ『DiPS.A』だ。POD機による小部数印刷サービスのほか、オリジナルブランド『tocotowa（トコトワ）』の紙文具販売なども行なう。

「以前、社内でジョブ分析を行なったところ、10万円以下の小規模なジョブが60%以上を占めるという状況でした。この小さなジョブを、確実に効率よく積み上げ、これまで以上に伸ばしていくには、もっと消費者と直接触れ合う機会をつくる必要があると考えたのです」（富沢部長）

2003年には、『DiPS.A』の向かいのコミュニティホール『ノイエス朝日』でギャラリー業務を開始。これは、地域で表現活動を行なう人々に作品展示や交流の場を提供するもの

だ。さらに 2011 年、消費者参加型の新たな情報発信メディアとして、群馬県初のロコミサイト『ぐんラボ!』をオープン。従来からの「印刷物の製作」にとどまらず、より幅広い視点から新サービスを展開し、“地域のプラットフォーム”として育てていこうという戦略である。

『DiPS.A』『ノイエス朝日』というリアル店舗と、Web 上のコミュニティーサイト『ぐんラボ!』。これらを、当社の“2 つのプラットフォーム事業”と位置付け、お客さまとより深い関係性を築いていこうと考えています」(富沢部長)

この BtoC の事業をより大きな柱として成長させるべく、2011 年には、『DiPS.A』のリニューアルを図るとともに、新たな戦力機として『富士ゼロックス Color 1000 Press』を導入し、POD の生産体制を強化。営業活動も、従来からの官庁・法人担当とコンシューマー担当を分け、それぞれがより柔軟に動けるよう改めた。この新体制のもと、『Color 1000 Press』を活かして最初に取り組んだのが、「卒業アルバムを復活させようプロジェクト」だ。県内を中心に、過疎地域や山間部などの学校に、卒業アルバムの製作を提案した。

「過疎地域では児童の数が減り、それに伴って卒業アルバムを取りやめるという学校が増えていました。部数が少ないため、従来手法で印刷するとコストがかかりすぎるということで、学校も保護者も製作を諦めていた。そんな状況を知り、何とか復活させられないだろうか考えたのです」(富沢部長)

同社が提案した卒業アルバムは、名入れやパーソナルページなど、POD ならではのバリエーション要素を盛り込んだもの。その仕上がりは、学校からも、生徒や保護者からも非常に好評で、これまでに 30 校以上で「卒業アルバムの復活」を実現。そして、この取り組みを通じ、富沢部長は「デジタル印刷の潜在需要の大きさをあらためて実感した」という。

「カレンダーや写真集、あるいは自分史などの個人向け出版の分野で、需要は充分に見込めると確信が持てました。そこで、さらにクオリティが高く、幅広いサイズに対応できるデジタル印刷機を新たに導入し、サービス拡充を図っていくことにしたのです」(富沢部長)

### ●クオリティと機動力を活かし、写真集の製作から販売まで

まだまだ潜在している小部数・高品質ニーズを、いかにして掘り起こすか。そのための新たな主戦力として選んだのが『Jet Press 720S』だ。すでに活用していたユーザーを見学するなど、約 1 年半にわたり検討を重ね、2015 年 10 月に導入した。決め手になったのは、「オフセット同等以上の色再現性」と「優れたメンテナンス性」だと富沢部長は語る。

「品質面で魅力を感じたのは、発色のよさに加えて、印刷面が非常に滑らかなこと。テクリや凹凸がなく、自然な仕上がりが得られます。また、色域が広く、鮮やかな色調も再現できるため、写真集などの用途に最適だと感じました。メンテナンス性では、プリントヘッドがモジュール構造になっている点がありがたいですね。万が一エラーが起こった場合でも、ユニットごとの交換ではなくモジュール単位で交換できますから、メンテナンスに伴う機械停止時間を最小限に抑えられます。これらのメリットは、小ロットの高付加価値

印刷を追求していくうえで強力な武器になると考えました」（富沢部長）

富沢部長は自ら、過去に撮りためた風景写真やスナップ写真を『Jet Press 720S』で出力し、大判の写真集を製作。写真館や個人の写真愛好家などにサンプルとして見せると、大きな手応えを感じるという。

「最近、デジタルカメラで撮った写真をデータで保管したまま、紙媒体に落とさない方が多くなっているようです。まして個人の作品集なんて考えも及ばない。その理由は、費用と手間がかかり、多くの部数を印刷しても一般に販売する手段を持たないからです。そこで、当社に任せていただければ、1冊から手軽に作品集がつくれ、必要なだけいつでも増刷できますよ、販売をお考えなら販売や紹介のチャンネルを確保して売れる仕組みをご提案しますよ、というお話をさせていただいています。こんな提案ができるのも、『Jet Press 720S』があればこそですね」（富沢部長）

同社は、『ノイエス朝日』で開催する作品展でも、『Jet Press 720S』を活かした独自のサービスを展開している。あらかじめ展示作品を撮影し、『Jet Press 720S』で作品集を製作、展示期間中に販売するというものだ。売れ行きの状況に応じて、適宜増刷し会場に供給する。作者の要望があれば、より豪華な装丁で製作することもできる。Jet Press のクオリティと機動力を存分に活かすことで、作品展に新たな付加価値を提供しているのだ。

このほかにも、バリエーションのオリジナルカレンダーや、地域で出版され長らく絶版となっていた貴重な書籍の復刻など、『Jet Press 720S』活用のアイデアはまだまだ尽きない。いま、サービス開始に向けて準備を進めているのが、『晴れの日の記念誌』をつくるという企画だ。

「温泉地の旅館やホテルなどに提案しているのですが、宿泊されたお客さまに、旅行の記念として写真集や冊子をつくって差し上げてはどうでしょうか。旅館で撮った家族団らんの写真や、周辺の観光地で撮影した写真を当社に送っていただければ、それを記念誌としてまとめ、当社から直接お客さまへお届けするというサービスです。群馬県は温泉王国ですから、旅館やホテルの宿泊パックにこの記念誌製作を組み入れていただき、たくさんのお客さまに喜んでいただければと願っています」（富沢部長）



### ● 『Jet Press 720S』が生み出す価値を、地域の力に

従来の営業スタイルを見直し、BtoCの小ロット印刷市場へとビジネス領域を広げている朝日印刷工業。この戦略の背景にあるのは、「印刷会社はもっと消費者に寄り添い、直結した販売チャンネルを築き、製造から配送まで一貫したサービスを提供することが重要では

ないか」という考え方だ。

「よく、“マス・プロダクションからマス・カスタマイゼーションへ”と言われますが、まさにその通りだと痛感しています。『Jet Press 720S』によって、一般のお客さまにもより高い付加価値の製品・サービスを提供できる体制が実現しました。これは、いままであった何かと比べられるものではなく、従来の印刷の概念、スタンダードを変えていくもの。そして、経営的観点で見れば、価格競争とは無縁の、しっかりと利益を確保できる土壌になっていくものだと思っています。今後、『Jet Press 720S』が生み出す価値をどんな形で消費者に提供できるか、さらに研究を重ねていきたいと思います」（富沢部長）

朝日印刷工業が、『Jet Press 720S』を中核に据えたプラットフォーム事業で目指すのは、情報活用・交流の場を大きく広げ、地域の活性化へとつなげていくこと。地方創生が重要視されるいま、同社の取り組みには熱い期待が集まっている。



#### 【朝日印刷工業株式会社 プロフィール】

1949年、「株式会社群馬情報社」として創業。当初から地域貢献を重視した印刷ビジネスを展開し、53年の市町村合併（昭和の大合併）以降は、官公庁・公共機関の各種印刷物を多く手がけてきた。2001年、多様化する情報発信ニーズに応えるため、オンデマンドプリントショップ『DiPS.A』を開設し、パーソナルユースに特化した印刷サービスを開始。その2年後、同ショップに近接する、アートギャラリーなどに利用できるコミュニティホール『ノイエス朝日』にてギャラリー業務を開始し、地元のアーティストなどに作品発表の場を提供している。2011年には、群馬県初のロコミナビサイト『ぐんラボ!』を開設。いまでは掲載店舗数3,700店、月間アクセス数は25万件を超える人気サイトとなっている。現在、同社は、『DiPS.A』『ノイエス朝日』『ぐんラボ!』を柱としたコンシューマー直結型ビジネスを強化しながら、新たな情報発信ニーズの開拓に力を入れている。